

「主体」「協働」「挑戦」の3つの心を軸とした体力アップの取組について

岡山県美作市立大原小学校

全校児童数	135名
全クラス数	8クラス(内特別支援学級2)
教職員数	23名

Plan：取組時の課題と目的

1 取組時の課題

- ①遊びの内容が固定化されており、多様な動きを身につけられていないこと。
- ②若手職員が多く、指導経験が不足していること。
- ③投運動、瞬発力、持久力に課題が見られること。
- ④児童のほとんどがバス通学のため、日常的な運動量が少ないこと。
- ⑤学区が広く、児童同士の家の距離が遠いため、一緒に遊びを通して体を動かす機会も少なくなっていること。

2 取組の目的

- ①「体を動かすことが好き！」と感じる児童の増加(運動嫌いの解消)
- ②「体育が好き！」と感じる児童の増加(体育嫌いの解消)
- ③様々な体の動かし方の獲得
- ④学校だけでなく、家庭を巻き込んで「体を動かすことの楽しさ」を感じることで運動の習慣化。(運動の習慣化)

Do：取組の内容

取組については、「意欲向上」「体力向上」「家庭との連携」の3本柱として考えた。

(1)「意欲向上」

- ・遊び場の充実・県の取組への参加・スマイルタイム
- ・体育掲示板の充実・チャレンジタイム・外部講師の活用
- ・職員の意識改革

(2)「体力向上」

- ・授業改善・年間計画の作成・共有
- ・体力テストの課題種目へのアプローチ

(3)「家庭との連携」

- ・体育通信の発行・学校保健委員会の取組

●工夫したこと

- ①体育授業だけにとどまらず学校教育目標と関連させて、学校の様々な時間を活用して行うことで、体育担当だけではなく、学校職員全員で取り組んだ。
- ②体育通信を発行することで、家庭との連携を図った。
- ③外遊びだけが運動ではないという児童の認識の変化、体育館でしかできない運動遊びによる新たな動きの獲得、体育館解放によっておこる問題を自治的に解決していくことなどをねらい、体育館開放を行った。

3. 取組の内容

家庭との連携

主体

協働

挑戦

体育通信の発行

家庭でできる運動遊びの提案



本校では体育館にしかないバスケットゴールを使い休み時間にバスケットをしている様子。

Check：取組の成果

(1) 運動、体育の授業が苦手な児童の減少

児童アンケートから、「体を動かすことがきらい」と感じる児童が「8.8%」から「5.2%」(肯定群94.8%)に、「体育の授業がきらい」と感じる児童が「4.3%」から「3.2%」(肯定群96.8%)に減っていることが分かった。

その背景としては、授業改善や遊び場の工夫、スマイル・チャレンジタイムなどで様々な運動を友達や異学年とも経験することができたことや、職員の意識改革による、細やかな、子ども達を励ます声かけや適切な指導・支援等であると考えられる。

3. 取組の内容

取組の3本柱

主体 協働 挑戦

柱	目的	手段
1. 意欲向上 4月「体を動かすことが好きですか？」肯定群 91.1%	<ul style="list-style-type: none"> ○「体を動かすことが好き！」と感じられる児童の増加(運動嫌いの解消) <p>指標：「体を動かすことが好きですか？」アンケート結果</p>	<p>遊び場の充実・県の取組への参加 スマイルタイム・体育掲示板の充実 チャレンジタイム・外部講師の活用 ・職員の意識改革 (環境整備・機会をつくる)</p>
2. 体力向上 4月「体育の授業は好きですか？」肯定群 95.6%	<ul style="list-style-type: none"> ○「体育が好き！」と感じる児童の増加(体育嫌いの解消) ○様々な体の動かし方の獲得 <p>指標：「体育の授業は好きですか？」アンケート結果</p>	<p>授業改善 年間計画の作成・共有 体力テストの課題種目へのアプローチ (職員の取組・意識改善)</p>
3. 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だけでなく、家庭を巻き込んで「体を動かすことの楽しさ」を感じる 	<p>体育通信の発行 学校保健委員会の取組 (家庭への呼びかけ)</p>

